

ITソリューション IT Solution

MINDクラウドサービス“Value Platform on Demand”でのセルフサービスポータル機能

Self-Service-Portal Function on MIND Cloud Service "Value Platform on Demand"

三菱電機インフォメーションネットワーク㈱(MIND)では、オンデマンドITサービスとして、2010年にIaaS (Infrastructure as a Service)型プラットフォームサービス“Value Platform on Demand”の販売を開始した。その後サーバ仮想化技術が進歩し、顧客からもこれまで以上に“短納期”“低コスト”“利便性”が求められるようになってきた。これらの要求に応えるべく、MINDでは、VMware社が提唱するSDDC(Software Defined Data Center)^{(*)1}を採用した。これによってインフラを構成するサーバ、ストレージ、ネットワークをそれぞれソフトウェアとして定義し、システム環境を自動的に設定・変更することができる。MINDではこのソフトウェア化した基盤上に、ユーザーがWebベースでシステム環境を簡便に運用できるポータル機能を開発し、セルフサービスポータルサイトを立ち上げた。

セルフサービスポータルの主な提供機能と特長について述べる。

(1) ダッシュボード：必要な情報が一目で分かる

システム担当者がログインした際に最初に表示されるページで、これまで必要の都度、電話やメールでMIND担当者に問い合わせていたリソース情報を、仮想リソース統合管理ソフトウェアの“vCenter Server^{(*)2}(注)”から自動取得して一覧表示する機能である。これによって、MIND担当者へ問い合わせる手間が削減できる。

(2) サービスメニュー：仮想サーバを追加できる

システム担当者が仮想サーバを新規に構築して追加する場合、まず、ワークフロー管理を行う“vRealize Orchestrator^{(*)2}(注)”が、テナント管理(ユーザーごとの領域等)を制御する“vRealize Automation^{(*)2}(注)”を呼び出して、仮想ホスト上に当該ユーザーの領域を確保する。次に、仮想ネットワーク制御を行う“NSX for vSphere^{(*)2}(注)”がネットワークを設定する。このような構築プロセスを自動化することによって、専門の技術者が一週間かかるような複雑な仮想サーバ構築作業を、数時間で完了できる。

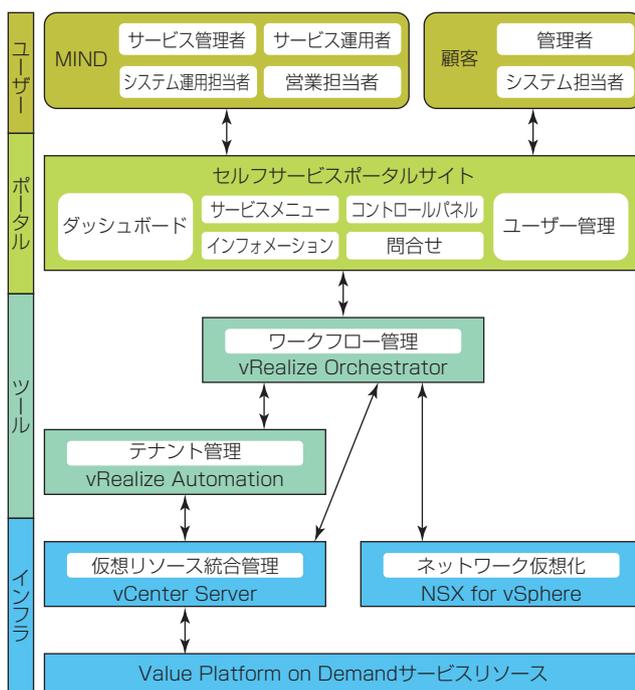
(3) コントロールパネル：仮想サーバを操作できる

所有する仮想環境上の仮想サーバ一覧を、コントロールパネル上に表示し、システム担当者はこの一覧から仮想サーバの停止、起動、設定の追加や変更を行うことができる。さらに、仮想サーバは電源ONの状態か否かといった稼働状況やパフォーマンス情報も確認でき、発生した問題にすみやかに対処できる。

MINDではIaaS型プラットフォームサービスValue Platform On Demandを活用する顧客のビジネスに更なる貢献ができるよう、最先端の仮想化技術を実装するためのポータル機能の開発を今後とも継続していく。

*1 データセンターを丸ごと仮想化するコンセプト

*2 VMware社のソフトウェアである。



セルフサービスポータルモジュール構成

ダッシュボード	<ul style="list-style-type: none"> 仮想マシン一覧 お知らせ リソース情報表示 操作履歴表示 アラート情報表示
サービスメニュー	<ul style="list-style-type: none"> 仮想マシンサービス 仮想ネットワークサービス 監視サービス バックアップサービス
コントロールパネル	<ul style="list-style-type: none"> 仮想マシン、ネットワーク、ストレージ一覧 仮想マシンのヘルスチェック 仮想マシンのパフォーマンス情報表示
ユーザー管理	<ul style="list-style-type: none"> 契約情報の表示 新規ユーザーの作成 ユーザー情報の変更 ユーザーの削除
インフォメーション	<ul style="list-style-type: none"> サービスに関するお知らせ 利用マニュアル等のダウンロード 操作履歴
問合せ	<ul style="list-style-type: none"> FAQ 各種お問合せ

FAQ: Frequently Asked Questions

セルフサービスポータルサイトの機能

<取り扱い：三菱電機インフォメーションネットワーク㈱ TEL：03-6771-6048>

ITソリューション IT Solution

かかりつけ薬局を支援する三菱保険薬局システム“調剤Melphin/DUO”

"Melphin/DUO" : Pharmacy System Supporting Family Pharmacy

1. 保険薬局システムの現状

三菱電機グループでは、30年以上にわたり、三菱保険薬局システム“調剤Melphin/DUO”で保険薬局の業務をサポートしてきた。現在、7,000軒超のユーザーを持ち、シェア13%で業界第3位に位置する。

近年、少子高齢化社会での医療費削減政策によって、薬価差益の圧縮や医療報酬の引下げが顕著になってきており、その背景の下、薬局経営者は利益を上げられる薬局を目指し、患者向けサービスの向上とコスト削減が急務となっている。

2. 保険薬局を取り巻く社会環境

従来、薬局は病院の近隣に場所を確保して、病院からの患者を受け入れやすくし、来局患者を増やすことによって利益を上げる業種であった。しかし、厚生労働省は薬局に対して、本来の薬局業務である患者にとって最適な医療を提供する場に回帰させ、地域住民の健康をサポートする“かかりつけ薬局”への転換を促している。患者に処方する薬だけではなくそれ以外の患者が個々で服用しているOTC薬(市販薬)・サプリメントを含めた全ての服薬管理、服薬相談の24時間受付、在宅訪問対応、周辺医療機関との連携など、多くの薬局では、地域住民の“かかりつけ”の存在となるために、様々な取組みを始めている。

3. 保険薬局とともに進化する調剤Melphin/DUO

調剤Melphin/DUOは、処方ごとの患者請求額計算機能、保険請求等の基本機能はもちろん、電子レセプト請求・電子薬歴など、保険薬局の業態変化のタイミングでいち早くニーズに合った機能をリリースしており、その都度大きくシェア率を伸ばしてきた。

調剤Melphin/DUOは“かかりつけ薬局”を意識して、次のような様々な機能を充実させている。

(1) 先確認機能

薬剤師が患者との問診等を通じ処方せんどおり調剤してよいかどうか判断するための服薬状況、残薬状況、後発医薬品(ジェネリック医薬品)服薬の意向等を判断支援する。

(2) マネジメント機能

処方された医薬品に応じて患者に確認する標準的な内容を表示する。

(3) 鑑査チェック機能

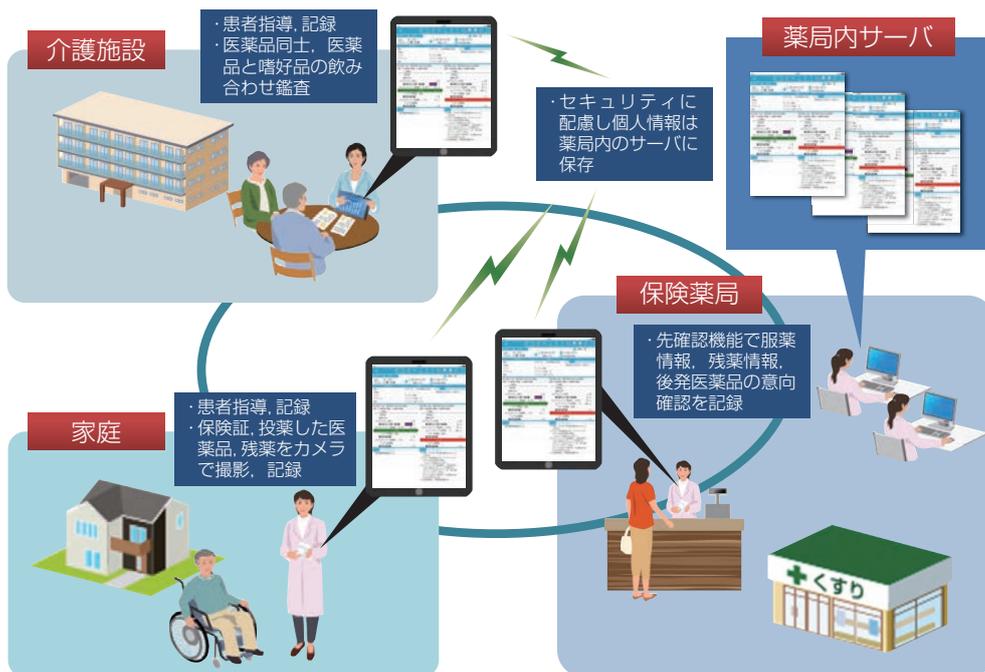
医薬品同士、又は医薬品と患者の嗜好(しこう)品の飲み合わせに対する鑑査を行い問題があれば警告する。

さらに、モバイルでの利用を目的とした“モバイル電子薬歴iMelhis”をリリースしており、タブレット端末を活用して薬局外へ持ち歩いて在宅患者や施設患者への指導や記録の支援ツールとして利用されている。iMelhisでは付属

カメラを活用し、残薬状況、保険証、投薬した医薬品等を撮影できる。撮影したデータは、タブレット端末から店舗に設置しているサーバに逐次移動させてタブレットにデータを残さない仕組みとしており、セキュリティ面でも十分に配慮している。

4. 今後の展開

今後も、厚生労働省の考え方をシステムに取り込みながら、薬局が利益を確保できる機能を充実させることによって、薬局経営者の支持が得られ、患者に満足を与えるシステムの提供を目指していく。



モバイル電子薬歴iMelhisの利用イメージ

<取り扱い：三菱電機インフォメーションシステムズ(株) TEL：0467-41-3491>